

# I 共通科目

保健医療福祉の連携・協働特論	1
研究と倫理	3
高等教育政策・教育方法特論	5
看護の発展と研究特論	8
リハビリテーションの発展と研究特論	10
生体反応と臨床応用特論	12
保健医療の社会的課題と対応特論	14
保健医療教育特論	17

授業科目	保健医療福祉の連携・協働特論		科目英語表記	Advanced cooperative and collaborative teamwork in health and welfare		
職名、担当教員氏名	学 長 上月 正博 教 授 菅原 京子 教 授 加藤 浩 教 授 村 成幸 教 授 藤井 浩美					
科目責任者氏名	菅原 京子					
学内連絡教員氏名						
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士後期1年			
科目区分	共通	必修・選択の別	必修			
授業形態	講義	開講時期	前期	単位数	2単位	
授業概要	高齢・人口減少社会の重要課題である保健医療福祉の連携・協働の必要性について深く理解する。また、連携・協働の構築過程（人材育成などの連携の基盤整備・実践・評価を含む）や連携・協働におけるシステム開発の方法と課題を探求する。さらに、山形県で展開されている連携・協働の全国的先進地をフィールドとして、関係機関や職種等との検討を行い、保健医療専門職の役割について考察する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.保健医療福祉における連携・協働に関する概念の変遷について説明できる。</li> <li>2.保健医療福祉における連携・協働の課題とそれに対する対応について説明できる。</li> <li>3.保健医療福祉における連携・協働と様々な社会システムとの関連について説明できる。</li> <li>4.保健医療福祉における連携・協働の国際的な動向について説明できる。</li> <li>5.連携・協働の構築の基盤となる人材の日本の状況（保健医療福祉の職種と資格制度）を説明できる。</li> <li>6.連携・協働の構築の基盤となる人材の欧米の状況（職種と資格制度）について説明できる。</li> <li>7.事例に基づいて連携・協働の構築過程やシステム開発の方法と課題について検討できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・難病療養支援における連携・協働</li> <li>・運動機能低下の予防のための連携・協働</li> <li>・日常生活活動向上のための環境整備における連携・協働</li> </ul> </li> <li>8.山形県鶴岡市・庄内南部地域で展開されている連携・協働プロジェクトについて、構築過程、現状、課題について説明できる。</li> <li>9.各地で展開されている連携・協働プロジェクトについて考察し、意見交換ができる。</li> <li>10.保健医療福祉の連携・協働における保健医療専門職の役割について考察できる。</li> </ol>					
成績評価方法	授授業への参加状況（30%）、準備状況（30%）、発表・討議（40%）をレポートで評価する。					
成績評価基準	<p>到達目標 1～7</p> <p>特に優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に十分説明できる</p> <p>優れている：内容を理解し、論理的に正しく、かつ明確に概ね説明できる</p> <p>良好である：内容を理解し、論理的に正しく概ね説明できる</p> <p>最低限の到達：一部不十分な所もあるが、ある程度説明できる</p> <p>目標に到達していない：説明できない</p>					
授業形式	原則オンライン					

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	保健医療福祉における連携・協働	保健医療福祉における連携・協働の概念の変遷	講義、討議	保健医療福祉における連携・協働の概念の確認	上月
2	保健医療福祉における連携・協働	保健医療福祉における連携・協働の課題とそれに対する対応	講義、討議	保健医療福祉における連携・協働の課題の確認	上月
3	保健医療福祉における連携・協働	保健医療福祉における連携・協働と様々な社会システムとの関連	講義、討議	保健医療福祉における連携・協働に関連する社会システムの確認	上月
4	保健医療福祉における連携・協働	保健医療福祉における連携・協働の国際的な動向	講義、討議	保健医療福祉における連携・協働の国際的な動向の確認	上月
5	連携・協働の構築の基盤となる人材状況	日本と欧米の保健医療福祉の職種/資格制度：NS	講義、討議	日本と欧米の保健医療福祉の職種/資格制度の確認	菅原
6	連携・協働の構築の基盤となる人材状況	日本と欧米の保健医療福祉の職種/資格制度：PT	講義、討議	日本と欧米の保健医療福祉の職種/資格制度の確認	加藤
7	連携・協働の構築の基盤となる人材状況	日本と欧米の保健医療福祉の職種/資格制度：OT	講義、討議	日本と欧米の保健医療福祉の職種/資格制度の確認	藤井

8	連携・協働の構築過程やシステム開発の方法と課題	難病療養支援における連携・協働	講義、討議	難病療養支援の確認	菅原
9	連携・協働の構築過程やシステム開発の方法と課題	運動機能低下の予防のための連携・協働	講義、討議	運動機能低下の予防の確認	村
10	連携・協働の構築過程やシステム開発の方法と課題	日常生活活動向上のための環境整備における連携・協働	講義、討議	日常生活活動向上のための環境整備の確認	藤井
11	山形県鶴岡市・庄内南部地域における連携・協働プロジェクト	鶴岡市の連携の経緯、工夫、今後の課題（Net 4U、地域連携バス）	講義、討議	Net 4Uの確認	非常勤講師（鶴岡地区医師会）
12	山形県鶴岡市・庄内南部地域における連携・協働プロジェクト	鶴岡地区医師会地域連携室が取り組む医療介護連携事業	講義、討議	医療介護連携事業の確認	非常勤講師（鶴岡地区医師会）
13	各地で展開されている連携・協働プロジェクト	各地で展開されている連携・協働プロジェクトの報告・意見交換	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーション資料の作成	菅原
14	各地で展開されている連携・協働プロジェクト	各地で展開されている連携・協働プロジェクトの報告・意見交換	プレゼンテーション、討議	プレゼンテーション資料の作成	菅原
15	まとめ	保健医療福祉の連携・協働における保健医療専門職の役割	討議	全体のまとめ	菅原
日付					

教科書	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WHO「World health report 2010 Health systems financing: the path to universal coverage」</li> <li>・筒井孝子「地域包括ケアシステムのサイエンス－integrated care理論と実証」社会保険研究所、2014</li> <li>・菅原京子（研究代表）「ファイザーヘルスリサーチ振興財団国際共同研究報告書・地方分権下の保健福祉サービス提供体制と専門職の役割に関する日仏比較研究」2008</li> <li>・川村佐和子監修「難病看護の基礎と実践－すべての看護の原点として」桐書房、2014</li> <li>・公益社団法人日本リハビリテーション医学会監修「リハビリテーションと地域連携・地域包括ケア」治療と診断社、2013</li> </ul>
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	上月：学長室 kohzuki@yachts.ac.jp      菅原：研究室7 ksugawara@yachts.ac.jp 藤井：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp      加藤：研究室36 hikato@yachts.ac.jp 村：研究室35 nmura@yachts.ac.jp
備考	山形県鶴岡市・庄内南部地域（鶴岡市・三川町）は連携・協働に関する様々な先進的取り組みを行っています。地域住民の健康とQOL向上のため、各プロジェクトが有機的に連携している点も全国的に注目されています。「地域住民の医療と介護をつなぐヘルスケア・ソーシャル・ネットワーク Net 4U」「鶴岡地区医師会地域医療連携室ほたる」「庄内南部地域連携バス協議会」「庄内プロジェクト：緩和ケアのための地域プロジェクト」については、それぞれホームページが開設されていますので、閲覧して授業に臨んでください。

授業科目	研究と倫理	科目英語表記	Research and ethics		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 浅井 篤				
科目責任者氏名	浅井 篤				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士後期1年		
科目区分	共通	必修・選択の別	必修		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	1単位
授業概要	保健医療分野の研究活動を遂行するうえで、知っておくべき研究倫理について教授し、研究者のリーダーとしての責任ある態度と高い倫理性を涵養する。				
到達目標	1.研究倫理の意義を説明できる。 2.研究における不正行為や問題となる利益相反を具体的に説明できる。 3.保健医療分野の研究倫理における特徴を理解し、自己の研究に反映することができる。				
成績評価方法	・レポート（50％）：「自己の研究について、起こりうる倫理的課題とそれに対する方策」 起こりうる具体的な課題が列挙できているか、その課題に対する具体策を説明できているかで評価 ・授業内でのショート・プレゼンテーション（20％）：1～6回目（学習内容の理解度、見解の論理性） ・意見交換への参加積極性（30％）：7～8回目の演習において、自分の意見を述べているか、他者の意見を踏まえて発展的に思考できているかを評価				
成績評価基準	研究倫理および研究者の倫理の歴史、原則、意義、各論的な課題および対応策を説明できる。 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				
授業形式	ZOOMによる遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	研究と倫理の意義	研究倫理の意義、科学的合理性、ガイドライン、法	ZOOMによる遠隔授業	事前学習と復習	浅井
2	研究における不正行為	ねつ造、改ざん、盗用の実際、誠実な研究実施	ZOOMによる遠隔授業	事前学習と復習	浅井
3	研究における利益相反	研究助成の申請と審査、研究経費、研究組織	ZOOMによる遠隔授業	事前学習と復習	浅井
4	研究成果と知的財産権	知的財産権制度、知的財産権取得、著作権、知的財産活用	ZOOMによる遠隔授業	事前学習と復習	浅井
5	保健医療分野の研究倫理の特徴	介入、侵襲、被験者保護、同意取得、患者・市民参画など	ZOOMによる遠隔授業	事前学習と復習	浅井
6	保健医療分野の研究倫理の特徴	介入、侵襲、被験者保護、同意取得、患者・市民参画など	ZOOMによる遠隔授業	事前学習と復習	浅井
7	演習：具体的プロトコルの倫理的観点からの検討	自己の研究計画やデータ管理に関する具体的課題について討議	ZOOMによる遠隔授業	レポート	浅井
8	演習：研究不正予防の観点からのプロトコル検討	自己の研究計画やデータ管理に関する具体的課題について討議	ZOOMによる遠隔授業	レポート	浅井
日付					
6.4.13（土）2-5 6.4.20（日）1-4					

教科書	指定教科書はない。使用する資料は授業時および事前に配布する。
-----	--------------------------------

参考書	日本学術振興会『科学の健全な発展のために』、丸善出版、2015年、 黒木登志夫『研究不正 科学者の捏造、改ざん、盗用』、中公新書、2016年、 神里彩子、武藤香織編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』、東京大学出版会、2015、 滋賀医科大学医学部附属病院臨床研究開発センター企画、田代志門監修、『研究倫理教材DVD』（2015年4月）、株式会社桜映画社制作 笹栗俊之・武藤香織編『シリーズ生命倫理学 医学研究』、丸善出版、平成24年、東京、Murphy, TF, Case studies in biomedical research ethics, MIT press, Cambridge, 2004. Gregory Pence Medical Ethics 8th edition, McGraw Hill, New York., 2017.
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	浅井 篤 : aasai@med.tohoku.ac.jp 東北大学大学院医学系研究科医療倫理学分野 電話022-717-8196、ファックス022-717-8198
備考	

授業科目	高等教育政策・教育方法特論	科目英語表記	Advanced higher education policy and teaching method		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 光本 滋 非常勤講師 佐藤 浩章				
科目責任者氏名	光本 滋				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士後期1年／博士後期2年／博士後期3年		
科目区分	共通	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	高等教育政策の論理・展開と教育の課題、高等教育における教育課程編成や評価方法、効果的な教育の方法論を教授し、保健医療系の高等教育における教育力を涵養する。				
到達目標	1.現代の高等教育の主要な論点を説明できる。 2.高等教育政策の問題について原理的な観点から考察できる。 3.高等教育政策に関する研究・実践上の課題を設定できる。 4.今日の日本の高等教育の現状と教育における倫理的課題を説明できる。 5.高等教育における、カリキュラム・マネジメントの方法を説明できる。 6.高等教育における、効果的な複数の教育方法を説明できる。 7.高等教育における効果的な授業設計ができる。 8.高等教育における効果的な授業を実施できる。 9.高等教育における授業において適切に学習評価ができる。 10.高等教育における授業を改善することができる。				
成績評価方法	光本：事前課題（高等教育政策の検討）（10%）、授業中の討議（20%）、レポート（20%） 佐藤：3大学の3つのポリシー調査（5%）、シラバスとグラフィックシラバス（15%）、授業計画書（10%）、マイクロ・ティーチングとそのリフレクション（20%）				
成績評価基準	光本： 指定文献・講義内容の理解（15%） 到達目標1・2を評価する。 授業中の討議（15%） 到達目標1・2・3を評価する レポート（20%） 到達目標1・2・3を評価する。 それぞれ、 特に優れている；適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている；根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である；根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達；根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない；説明できない  佐藤： 3大学の3つのポリシー調査（5%） P：3つの大学の3つのポリシーを記述できている。 F：3つの大学の3つのポリシーを記述できていない。 シラバスとグラフィックシラバス（15%） A：模範となるレベルのシラバスとグラフィックシラバスが作成できている。 B：問題のないレベルのシラバスとグラフィックシラバスが作成できている。 C：シラバスとグラフィックシラバスが作成できているが、やや問題がある。 D：シラバスとグラフィックシラバスが作成できているが、問題が多い。 F：シラバスとグラフィックシラバスが作成できていない。 授業計画書（10%） A：模範となるレベルの授業計画書が記述されている。 B：問題のないレベルの授業計画書が記述されている。 C：授業計画書が記述されているが、やや問題がある。 D：授業計画書が記述されているが、問題が多い。 F：授業計画書が記述されていない。 マイクロ・ティーチングとそのリフレクション（20%） A：模範となるレベルのマイクロ・ティーチングが実施できる。 B：問題のないレベルのマイクロ・ティーチングが実施できる。 C：マイクロ・ティーチングが実施できているが、やや問題がある。 D：マイクロ・ティーチングが実施できているが、問題が多い。 F：マイクロ・ティーチングが実施できていない。				
授業形式	光本担当：対面 佐藤担当：対面				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	高等教育政策の基礎(1)	・教育が国民規模でおこなわれるようになった近代以降の教育の状況、人権としての教育の思想が成立、原理となる経緯を概観する。 ・大学の起源、展開の過程を概観し、学問の自由と大学の自治の課題を考察する。	講義（質疑、討議を含む）	事前に配布する資料を読み、疑問点を整理する。	光本
2	高等教育政策の基礎(2)	・戦後日本の高等教育法制（日本国憲法・教育基本法・学校教育法、高等教育の制度と基準）の原理と構造を理解する。	講義（質疑、討議を含む）	事前に配布する資料を読み、疑問点を整理する。	光本
3	高等教育政策の動向(1)	・専門職養成と継続教育、高等教育の種別化、大学設置基準の改正など近年の動向について、社会的背景や政策を規定する要因を考察する。	講義（質疑、討議を含む）、事前課題の報告	現代の高等教育政策・改革の動向について調べてまとめる。	光本
4	高等教育政策の動向(2)	・高等教育の拡大・国際化、教育内容・方法の革新、職業資格と継続教育の改革の国内外の潮流を概観し、課題と展望を考察する。	講義（質疑、討議を含む）	事前に配布する資料を読み、疑問点を整理する。	光本
5	高等教育政策の現代的課題(1)	・教育政策の動向が高等教育のどのような課題をもたらしているかを検討する。	講義、グループワーク	大学の自己点検・評価報告書を検討し、論点を提示する	光本
6	高等教育政策の現代的課題(2)	・保健医療政策の動向が高等教育にどのような課題をもたらしているかを検討する。	講義、グループワーク	大学の自己点検・評価報告書を検討し、論点を提示する	光本
7	高等教育政策の現代的課題(3)	・高等教育政策に関するレポートの作成に向けて、論点の整理と課題の検討をおこなう。	プレゼンテーション・討議	プレゼンテーションの準備	光本
8	カリキュラムの基礎	・カリキュラムのマネジメント方法を説明することができる。 ・カリキュラムと授業の関係を説明することができる。	聴講（講義）・グループワーク	事前課題：参考にしたい3つの大学における3つのポリシーを調べてまとめる。 (必要標準時間：3時間)	佐藤
9	授業設計（1）	・インストラクショナル・デザインに基づく授業設計手法を説明できる。 ・適切な目標を設定できる。 ・適切な教育方法を選択できる。	聴講（講義）・グループワーク	事前課題：授業設計に関する映像教材の視聴（必要標準時間：3時間）  チャプター1： <a href="https://www.youtube.com/watch?v=CZxWY-BUwVc">https://www.youtube.com/watch?v=CZxWY-BUwVc</a> チャプター2： <a href="https://www.youtube.com/watch?v=JSyckcowArc&amp;t=0s">https://www.youtube.com/watch?v=JSyckcowArc&amp;t=0s</a> チャプター3： <a href="https://www.youtube.com/watch?v=1SyYtaFr2E4&amp;t=0s">https://www.youtube.com/watch?v=1SyYtaFr2E4&amp;t=0s</a> チャプター4： <a href="https://www.youtube.com/watch?v=vyATxcuVKS0&amp;t=0s">https://www.youtube.com/watch?v=vyATxcuVKS0&amp;t=0s</a>	佐藤
10	授業設計（2）	・適切な学習評価法を選択できる。 ・適切なスケジュールを立てることができる。 ・他者のシラバスを正しく評価できる。	聴講（講義）・グループワーク	事後課題：シラバス作成（必要標準時間：3時間）	佐藤
11	教育方法（1）講義法	・講義法の定義を説明できる。	聴講（講義）・グループワーク	事後課題：マイクロティーチングの準備（必要標準時間：	佐藤

		・効果的なプレゼンテーション技法を実践できる。		3時間)	
12	マイクロ・ティーチング	・マイクロ・ティーチングを実践できる。 ・自ら並びに他者の授業の良い点、改善点を指摘することができる。 ・どのようにすれば授業を改善できるかを説明できる。	聴講（講義）・グループワーク・マイクロティーチング	事後課題：マイクロ・ティーチングのリフレクション（必要標準時間：3時間）	佐藤
13	教育方法（2）アクティブラーニング	・アクティブラーニングの定義を説明できる。 ・アクティブラーニングの技法の中から自らの授業で使用可能なものを選択できる。	聴講（講義）・グループワーク	事後課題：指導案の作成（必要標準時間：3時間）	佐藤
14	教育方法（3）オンライン教育	・オンライン教育の定義を説明できる。 ・オンライン教育の技法の中から自らの授業で使用可能なものを選択できる。	聴講（講義）・グループワーク	事後課題：指導案の作成（必要標準時間：3時間）	佐藤
15	学習評価	・授業の到達目標に沿って適切な学習評価方法を選択し、その評価指標と評価方法を設定できる。	聴講（講義）・グループワーク	事後課題：シラバスの修正（必要標準時間：3時間）	佐藤

日付

【光本】

6.8.5（月）2-5

6.8.6（火）2-4

【佐藤】

6.7.27（土）2-5

6.7.28（日）1-4

教科書	・なし
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堀尾輝久『人権としての教育』岩波書店、2019</li> <li>・日本教育法学会編『コンメンタール教育基本法』学陽書房、2021</li> <li>・杉森みどり、舟島なをみ著『看護教育学』（第7版）医学書院、2021</li> <li>・細井克彦・石井拓児・光本滋編著『新自由主義大学改革』東信堂、2014</li> <li>・佐藤浩章編著『大学教員のための授業方法とデザイン』（玉川大学出版部、2010）</li> <li>・中島英博編著『授業設計』（玉川大学出版部、2016）</li> <li>・佐藤浩章編著『講義法』（玉川大学出版部、2017）</li> <li>・中井俊樹編著『アクティブラーニング』（玉川大学出版部、2015）</li> <li>・中島英博編著『学習評価』（玉川大学出版部、2018）</li> <li>・佐藤浩章・栗田佳代子編著『授業改善』（玉川大学出版部、2021）</li> <li>・ダネル・スティーブンス他著『大学教員のためのルーブリック評価入門』（玉川大学出版部、2014）</li> </ul>
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1／博士後期2／博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	光本 滋 : mitumoto@edu.hokudai.ac.jp 佐藤 浩章 : satou.hiroaki.itgp@osaka-u.ac.jp
備考	教育の研究は、教育の現実に対する批判と創造的な教育への意欲を原動力としておこなわれきました。大学・高等教育の実際に疑問や違和感を感じている学生の参加を期待します（光本）。



授業科目	看護の発展と研究特論	科目英語表記	Advanced research aimed at the development of nursing		
職名、担当教員氏名	教授 中村 康香				
科目責任者氏名	中村 康香				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野	学年	博士後期1年		
科目区分	共通	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	看護の発展を目指し、多様な看護研究方法について特徴を深く理解し、看護研究について多面的・包括的に論じることができることを探究する。これからの看護の発展のための研究についての理解を深める				
到達目標	1.看護研究に必要なガイドラインについて説明することができる 2.多様な研究方法の特徴を多面的に論じることができる。 3.研究論文について批判的に吟味し論じることができる 4.看護研究に多彩な分野の視点を取り入れ、実装的研究へのつながりを説明することができる 5.研究疑問、研究で扱う概念を明確にし、研究計画書を作成できる。				
成績評価方法	プレゼンテーション（資料含む）：50% 講義内における態度30% 課題レポート（研究計画書含む）：50%				
成績評価基準	到達目標の達成度を、プレゼンテーション、講義内における態度、課題レポートにより以下を評価する 特に優れている； 適切で十分な根拠をふまえて論理的に説明できる 優れている； 根拠をふまえて論理的に説明できる 良好である； 根拠を用いてある程度論理的に説明できる 最低限の到達； 根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる 目標に到達していない； 説明できない				
授業形式	対面授業（遠隔授業になる場合もあります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	看護研究概要①	看護研究と看護の世界について理解する	講義	事前学習：何のための看護研究なのか考える 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
2	看護研究概要②	最新の看護研究の話題について学ぶ	講義・演習	事前学習：関心のある看護研究の話題についてプレゼン資料を作成する	中村 康香
3	概念分析	概念分析や理論生成・構築	講義・演習	事前学習：概念分析について予習 事後学習：関心のある概念について概念分析を行う	中村 康香
4	文献検索	システムティックレビュー	講義・演習	事前学習：システムティックレビューについて予習 事後学習：関心のある概念/変数/項目についてのシステムティックレビュー文献を詳読しまとめる	中村 康香
5	量的研究方法①	量的研究のガイドライン	講義・演習	事前学習：量的研究のガイドラインについてプレゼン資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
6	量的研究方法②	量的研究のメタ統合	講義・演習	事前学習：量的研究のメタ統合についてプレゼン資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
7	量的研究方法③	量的研究の文献レビューとクリティーク	講義・演習	事前学習：量的研究文献をレビュー・クリティークし資料作成についてプレゼン資料作成	中村 康香

				成 事後学習：講義内容の復習	
8	量的研究方法④	量的研究のSRの文献レビューとクリティーク	講義・演習	事前学習：量的研究のSR文献レビュークリティークし資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
9	質的研究方法①	質的研究のガイドライン	講義・演習	事前学習：質的研究のガイドラインについてプレゼン資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
10	質的研究方法②	質的研究のメタ統合	講義・演習	事前学習：志う的研究のメタ統合についてプレゼン資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
11	質的研究方法③	質的研究の文献レビューとクリティーク	講義・演習	事前学習：質的研究文献をレビュー・クリティークし発表資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
12	質的研究方法④	質的研究のSRの文献レビューとクリティーク	講義・演習	事前学習：質的研究のSR文献をレビュークリティークし資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
13	尺度開発①	尺度開発のガイドライン	講義・演習	事前学習：尺度開発のガイドラインについてプレゼン資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
14	尺度開発②	尺度の信頼性と妥当性	講義・演習	事前学習：尺度の信頼性と妥当性についてプレゼン資料作成 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
15	まとめ	これまでの自分の研究のクリティークと今後の課題を考察する	講義・演習	事前学習：研究計画書の作成とプレゼン資料 事後学習：講義内容の復習	中村 康香
日付					
毎週金曜日 6 限目					

教科書	
参考書	看護における概念開発 (医学書院, ISBN 978-4-260-04347-2) Concept Development in Nursing: Foundations, Techniques, and Applications 2nd edition よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版 (日本看護出版会協会, ISBN-13 : 978-4818022713) 看護における理論構築の方法 (医学書院, ISBN-13 : 978-4260006880) フォーセット看護理論の分析と評価 新訂版 (医学書院, ISBN-13 : 978-4260006347) Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence (ISBN-13 : 978-0323673174)
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	中村：研究室2 ynakamura@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	リハビリテーションの発展と研究特論	科目英語表記	Advanced research aimed at the development of rehabilitation		
職名、担当教員氏名	教授 菊池 昭夫 教授 村 成幸				
科目責任者氏名	菊池 昭夫				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士後期1年		
科目区分	共通	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	前期	単位数	2単位
授業概要	神経と筋骨格の疾患を中心に、リハビリテーションの発展に寄与しうる研究の方法について教授する。中枢神経疾患、認知症、高次脳機能障がい、末梢神経疾患、筋骨系障がいの症候、臨床研究、測定解析方法についての新しい知見を解説し、知見とリハビリテーションを結び付ける方法を教授する。学んだ内容に基づいて、リハビリテーションの診療で抱いた疑問を自ら明確化し、関連する先行研究を見つけ、先行研究を評価し、自分の疑問に関していまだ未解決な点を特定する手順を経験させる。残された疑問点が解決された場合、リハビリテーションにどのような寄与を行えるのかを考えさせる。疑問の解明方法を発案し、その案の不備を批判的に見出す練習をする。				
到達目標	1.神経と筋骨格の疾患の症候、臨床研究、測定解析方法についての知見の要点を文章に書くことができる。 2.抱いた臨床的疑問を授業参加者に分る言葉や図に表せる。 3.疑問に関わる文献を持参し、優れた点と問題点を述べるができる。 4.疑問が解決した場合、リハビリテーションのどの部分にどのような影響を与えるか列挙できる。 5.疑問の解決に必要なと思う方法を言葉や図で示せる。 6.上で示した解決方法の不備を挙げ、変更したものを言葉や図で示せる。				
成績評価方法	目標達成度（40%）、討議への寄与（60%）をレポートで評価する。				
成績評価基準	A. 特に優れている：積極的に授業へ参加し到達目標を適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明できる。 B. 優れている：積極的に授業へ参加し到達目標を根拠を踏まえて論理的に説明できる。 C. 良好である：積極的に授業へ参加し到達目標を根拠を用いてある程度論理的に説明できる。 D. 最低限の到達：積極的に授業へ参加し到達目標を根拠は乏しいがある程度論理的に説明できる。 E. 目標に到達していない：説明できない。				
授業形式	対面授業（遠隔授業となる場合があります）				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	中枢神経系	中枢神経疾患、認知症、高次脳機能障がいの症候、臨床研究、測定解析方法についての新しい知見とリハビリテーションとの関連を学ぶ	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池
2	末梢神経系、筋骨系	末梢神経疾患、筋骨系障がいの症候、臨床研究、測定解析方法についての新しい知見とリハビリテーションとの関連を学ぶ	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	村
3	症例検討（ケース1）	学生が疑問を持った症例について発表後、討論を行う。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池 村
4	症例検討（ケース1）	学生と教員が用意した文献を批判的に検討、未解決問題を見出す。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池 村
5	症例検討（ケース1）	学生が問題解決のための方法を提案（発表）、討論後、不備な点を解決した案を再発表する。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池 村
6	症例検討（ケース2）	学生が疑問を持った症例について発表後、討論を行う。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池 村
7	症例検討（ケース2）	学生と教員が用意した文献を批判的に検討、未解決問題を見出す。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池 村

		見出す。	に注意すべき点を教授する	を整理する練習をしておく	
8	症例検討 (ケース2)	学生が問題解決のための方法を提案 (発表)、討論後、不備な点を解決した案を再発表する。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池村
9	症例検討 (ケース3)	学生が疑問を持った症例について発表後、討論を行う。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池村
10	症例検討 (ケース3)	学生と教員が用意した文献を批判的に検討、未解決問題を見出す。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池村
11	症例検討 (ケース3)	学生が問題解決のための方法を提案 (発表)、討論後、不備な点を解決した案を再発表する。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池村
12	症例検討 (ケース4)	学生が疑問を持った症例について発表後、討論を行う。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池村
13	症例検討 (ケース4)	学生と教員が用意した文献を批判的に検討、未解決問題を見出す。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池村
14	症例検討 (ケース4)	学生が問題解決のための方法を提案 (発表)、討論後、不備な点を解決した案を再発表する。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池村
15	研究方法のまとめ	研究方法について全体的な討論とまとめを行う。	過去の研究をreviewしつつ、手法上の問題点や論文作成時に注意すべき点を教授する	あるテーマについての論文を複数読み、それぞれの問題点を整理する練習をしておく	菊池村

日付

教科書	随時紹介する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	菊池：研究室38 akikuchi@yachts.ac.jp 村：研究室35 nmura@yachts.ac.jp
備考	疑問を持つことと、自由な発想、それに対する批判的な吟味が重要です。積極的に討議へ参加してください。

授業科目	生体反応と臨床応用特論	科目英語表記	Advanced biological reactions and clinical application		
職名、担当教員氏名	教授 佐藤 寿晃 教授 仁藤 充洋				
科目責任者氏名	佐藤 寿晃				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士後期1年		
科目区分	共通	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習／実習若しくは実技	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	身体運動科学、神経生理学分野における研究手法として、特にヒトを対象とした生体反応に関する解析技術について概説し、実際の研究遂行に必要な基本的解析技術を教授する。				
到達目標	1.ヒトの基本的解析技術を身につけるため、身体運動科学、神経生理学分野における基礎的解析手法を理解する。				
成績評価方法	データ分析結果のプレゼンテーション (80%) グループ討議 (20%)				
成績評価基準	到達目標1に対して 特に優れている： 到達目標を大きく超えて優秀である。 優れている： 到達目標を越えて優秀である。 良好である： 望ましい到達目標に達している。 最低限の到達： 最低限の到達目標には達している。 目標に達していない： 到達目標を下回る。				
授業形式	対面				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	身体運動科学分野における解析技術Ⅰ	身体運動科学分野における解析技術(筋電図記録法)に関する講義	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
2	身体運動科学分野における解析技術Ⅱ	身体運動科学分野における解析技術(筋電図記録法)に関する講義	講義	講義終了後に復習してください。	佐藤
3	筋電図記録法からのデータ分析・解析方法Ⅰ	筋電図記録法からのデータ分析・解析方法について解説する。	講義、演習	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
4	筋電図記録法からのデータ分析・解析方法Ⅱ	筋電図記録法からのデータ分析・解析方法について解説する。	講義、演習	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
5	筋電図記録法からのデータ分析・解析方法Ⅲ	自らのデータを用いて分析・解析をする。	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
6	筋電図記録法からのデータ分析・解析方法Ⅳ	自らのデータを用いて分析・解析をする。	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	佐藤
7	プレゼンテーションⅠ	受講者が収集したデータを基に結果、考察を発表する。その後、臨床応用について討議する。	プレゼンテーション、討議	事前にプレゼンテーション資料は準備する。	佐藤
8	神経生理学分野における解析技術Ⅰ	神経生理学分野における解析技術(脊髄反射法)に関する講義	講義	講義終了後に復習をしてください。	仁藤
9	神経生理学分野における解析技術Ⅱ	神経生理学分野における解析技術(経頭蓋磁気刺激法)に関する講義	講義	講義終了後に復習してください。	仁藤

10	神経生理学的手法を用いたデータ計測・解析Ⅰ	電気刺激や叩打刺激などによる脊髄反射を用いたデータ計測・解析方法について解説する。	講義、演習	事前準備と講義終了後に復習してください。	仁藤
11	神経生理学的手法を用いたデータ計測・解析Ⅱ	電気刺激や叩打刺激などによる脊髄反射を用いたデータ計測・解析方法について解説する。	講義、演習	事前準備と講義終了後に復習してください。	仁藤
12	神経生理学的手法を用いたデータ計測・解析Ⅲ	経頭蓋磁気刺激による運動誘発電位を用いたデータ計測・解析方法について解説する。	講義、演習	事前準備と講義終了後に復習してください。	仁藤
13	神経生理学的手法を用いたデータ計測・解析Ⅳ	自ら計測したデータを解析し、結果をまとめる。	講義、グループワーク	事前準備と講義終了後に復習してください。	仁藤
14	プレゼンテーションⅡ	受講者が収集したデータを基に結果、考察を発表する。その後、臨床応用について討議する。	プレゼンテーション、討議	事前にプレゼンテーション資料は準備すること	仁藤
15	まとめ	1回から14回の学習内容を通じて、ヒトを対象とした生体反応と臨床応用について討議する。	グループワーク	事前にヒトを対象とした生体反応と臨床応用についてまとめておくこと。	佐藤、仁藤

日付

教科書	特になし
参考書	特になし 随時、資料は配布する。
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	佐藤寿晃：研究室37 tsato@yachts.ac.jp 仁藤充洋：研究室26 mnito@yachts.ac.jp
備考	

授業科目	保健医療の社会的課題と対応特論	科目英語表記	Advanced responses to social issues in health sciences		
職名、担当教員氏名	非常勤講師 加藤 智章 非常勤講師 宮坂 道夫				
科目責任者氏名	加藤 智章				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士後期1年		
科目区分	共通	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	後期	単位数	2単位
授業概要	今日の保健医療の社会的課題として重要である「社会保障制度適用の課題」「医療倫理の課題」を取りあげ、課題状況と対応について深く探究し、専門職として保健医療の社会的課題に向き合う姿勢と能力を涵養する。				
到達目標	1.日本における社会保障制度体系について、歴史的視点を踏まえ説明できる。 2.保健医療に関する社会保障制度適用の課題について、具体例を用いて説明できる。 生活保護との関係、年金との関係、医療保険・介護保険との関係 3.上記の課題への対応と今後の方向性について、国際比較を踏まえて説明できる。 4.医療倫理の歴史と方法について説明できる。 5.医療各分野（死と喪失、性と生殖、個人の権利と公共の福祉、先端医療等）において生じる倫理的諸問題を分析し解決するための計画を立案できる。 6.専門職として保健医療の社会的課題に向き合う姿勢を考察できる。				
成績評価方法	1～7回：授業への準備・参加状況（25%）、発表・討議（25%）をレポートで評価する。 準備・参加状況については、到達目標1および2を中心に評価する 発表・討議については、到達目標2および3を中心に評価する 8～15回：（1）講義の中で医療倫理の歴史的背景と現状の問題・課題についての討議を行い、その中で受講者の理解度を評価する。（25%） （2）講義の中で医療各分野の事例を題材に倫理的問題の分析を行い、それを解決するための計画をどの程度示せるかを評価する。（25%）				
成績評価基準	成績評価方法にあるように、1～7回と8～15回をそれぞれ50点満点で採点し、その合計点により成績評価する。 特に優れている A：合計点90点以上 到達目標1から6までについて明確な問題意識のもと、適切で十分な根拠を踏まえて論理的に説明・考察できる 優れている B：合計点80点以上 到達目標1から6までについて根拠をふまえて論理的に説明・考察できる 良好である C：合計点70点以上 到達目標1から6について根拠を用いてある程度論理的に説明・考察できる 最低限には到達している D：合計点60点以上 到達目標6項目について根拠は乏しいがある程度論理的に説明・考察できる 目標に達していない F： 到達目標6項目について、いずれも説明・考察するに至っていない				
授業形式	加藤：対面授業 宮坂：ZOOMによる遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	社会保障制度史と制度体系	社会保障制度の歴史的沿革を概観し、社会保障制度体系のありようを考察する。	演習	社会保障に関する文献を渉猟して、救貧政策・相互扶助政策の史的展開を概観し、ペバリッジ報告・社会保障制度勧告（1950年）の比較検討を行う。	加藤
2	保健医療に関する制度適用の課題1	人的適用対象の広狭について、社会保険における被保険者資格、生活保護法における被保護者の範囲について検討する。	演習	社会保険被保険者資格、生活保護受給権と外国人の関係について、以下の裁判例を概観する。 社会保険における被保険者資格 ★外国人の国民年金法被保険者資格：東京地判昭和57.9.22行集33/9/1846 ★国民健康保険法の住所要件：最判平16.1.15民集58/1/226 生活保護における被保護者 ★非定住外国人（オーバーステイ）への生活保護の適用：	加藤

				最判平13.9.25判時1768/47 ★定住外国人への適用：最判平26.7.18LEX/DB25504546 国家補償関係 ★原爆医療法の適用と居住関係：最判昭53.3.30民集32/2/435	
3	保健医療に関する制度適用の課題2	被保険者資格付与のあり方について国民健康保険と介護保険を比較検討し、皆保険における政策選択について考察する。	演習	介護保険法の1号被保険者・2号被保険者の規定から生活保護受給者がどのように位置づけられているかを理解する。あわせて、国民健康保険における被保険者資格付与の仕組みについても検討する。	加藤
4	保健医療に関する制度適用の課題3	保険給付における「療養の給付」と「家族療養費」の違いを、給付支給の判断・費用の流れを中心に検討する。	演習	有斐閣アルマに基づいて療養の給付に関わる当事者関係を理解するとともに、介護保険における当事者関係についても比較検討する。	加藤
5	保健医療に関する制度適用の課題4	健康保険・国民健康保険・後期高齢者医療における財源構成と財源移転を考察し、併せて介護保険における財源構成・財政システムについて検討する。	演習	国家予算に示める社会保障費、社会保障財政の概要を前提に、全国高齢者医療主管課長等会議資料（厚労省HP <a href="https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000750073.pdf">https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000750073.pdf</a> 等）から、健康保険・国民健康保険および後期高齢者医療がどのような財源構成となっているか、いかなる財政移転が存在するかを考察する。あわせて、旭川国保条例事件（★最判平18.3.1民集60/2/587）を概観する。	加藤
6	社会保障制度の課題への対応と方向性1	総人口減少社会が抱えるであろう社会保障制度全体の課題について検討する。	演習	5回までの演習を総括する意味で、総人口減少社会における社会保障制度の課題を概観するプレゼンテーションを準備する。	加藤
7	社会保障制度の課題への対応と方向性2	医療介護総合確保法がその目的とする地域性に着目して、確保基金のあり方を都道府県別に比較検討し、地域包括ケアシステム・地域共生社会の構築が抱える課題と問題を明らかにする。	演習	医療介護総合確保基金に関する山形県計画に基づいて、山形県における地域包括ケアシステム・地域共生社会の構築が抱える課題と問題を明らかにするプレゼンテーションを準備する。	加藤
8	医療倫理の歴史と方法	医療倫理の歴史と方法 ・倫理原則、四分割法 ・ナラティブ・アプローチ、倫理調整	講義と討議	履修者の臨床経験・医療倫理の習熟度により、講義中に指示する。	宮坂
9	医療倫理の歴史と方法	医療倫理の歴史と方法 ・倫理原則、四分割法 ・ナラティブ・アプローチ、倫理調整	講義と討議	履修者の臨床経験・医療倫理の習熟度により、講義中に指示する。	宮坂
10	医療倫理の課題と対応(1)	医療倫理各領域の課題と対応 ・死と喪失 ・性と生殖	講義と討議	講義中に指示する臨床事例または履修者が経験した臨床事例についての分析を行う。	宮坂
11	医療倫理の課題と対応(1)	医療倫理各領域の課題と対応 ・死と喪失 ・性と生殖	講義と討議	講義中に指示する臨床事例または履修者が経験した臨床事例についての分析を行う。	宮坂
12	医療倫理の課題と対応(2)	医療倫理各領域の課題と対応 ・個人の権利と公共の福祉 ・先端医療	講義と討議	講義中に指示する臨床事例または履修者が経験した臨床事例についての分析を行う。	宮坂



13	医療倫理の課題と対応(2)	医療倫理各領域の課題と対応 ・個人の権利と公共の福祉 ・先端医療	講義と討議	講義中に指示する臨床事例または履修者が経験した臨床事例についての分析を行う。	宮坂
14	専門職としての医療倫理の課題への対応	医療倫理の課題に対する専門職としての関わり・討議	講義と討議	医療機関等において倫理調整、臨床倫理カンファレンス、臨床倫理委員会を模擬的に企画し、そのフェアシリテーションを計画する。	宮坂
15	専門職としての医療倫理の課題への対応	医療倫理の課題に対する専門職としての関わり・討議	講義と討議	医療機関等において倫理調整、臨床倫理カンファレンス、臨床倫理委員会を模擬的に企画し、そのフェアシリテーションを計画する。	宮坂

日付

【加藤】

6. 8.30 (金) 2-5  
6. 8.31 (土) 1-3  
6. 9. 1 (日) 調整日

【宮坂】

6. 5. 8 (水) 1-4  
6. 7. 25 (木) 1-4

教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加藤智章/菊池馨実/倉田聡/前田雅子「有妻閣アルマ社会保障法」第8版、有妻閣</li> <li>・宮坂道夫「医療倫理学の方法－原則・ナラティブ・手順」第3版、医学書院、2016</li> <li>・Deborah Oughton et. Social and Ethical Aspects of Radiation Risk Management, Volume 19 (Radioactivity in the Environment), 2013</li> </ul>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松本勝明編「医療制度改革 - ドイツ・フランス・イギリスの比較分析と日本への示唆」、旬報社、2015</li> <li>・加藤智章編「世界の病院・介護施設」法律文化社2020年</li> <li>・島崎謙治『日本の医療 制度と政策 増補改訂版』東京大学出版会 2020年</li> </ul>
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	加藤 智章：truite0641y@yahoo.co.jp 宮坂 道夫：miyasaka@clg.niigata-u.ac.jp
備考	

授業科目	保健医療教育特論	科目英語表記	Advanced health sciences and education		
職名、担当教員氏名	教 授 藤井 浩美 非常勤講師 佐竹 真次				
科目責任者氏名	藤井 浩美				
学内連絡教員氏名					
分野	看護学分野／理学療法学分野／作業療法学分野	学年	博士後期1年		
科目区分	共通	必修・選択の別	選択		
授業形態	講義／演習	開講時期	通年	単位数	4単位
授業概要	保健医療専門職養成の教育内容の最新知見を基に理解できるようにする。(この授業科目は、学校教育法に基づく大学院において教育学に関する科目に相当する。)				
到達目標	保健医療専門職養成の教育内容の最新知見を基に理解し説明できるようにする。				
成績評価方法	グループ討議度（ミニコメントシート）：25%（6回） 討議への参加度（討議内容のまとめ）：25%（6回） 最終時レポート：50% 保健医療専門職の教育開発が可能かを判定する。				
成績評価基準	特に優れている：根拠を踏まえて、保健医療専門職教育およびより高品質な教育内容を理解し、具体的方法を理論的に説明できる。 優れている：根拠を踏まえて、保健医療専門職教育およびより高品質な教育内容を理解し、具体的方法を説明できる。 良好である：根拠を踏まえて、保健医療専門職教育およびより高品質な教育内容を理解し、具体的方法がある程度説明できる。 最低限の到達：根拠は乏しいが、保健医療専門職教育およびより高品質な教育内容を理解し、具体的方法がある程度説明できる。 目標に達していない：保健医療専門職教育およびより高品質な教育内容を理解し、具体的方法ついて、説明できない。				
授業形式	対面と遠隔授業				

授業計画					
回	授業項目	学習内容	学習方法	授業外学習	授業ごとの担当教員
1	保健医療専門職の教育	国際生活機能分類（ICF）を基本に教育のあり方を説明できる。	講義	保健医療と教育に関連する文献を抄読する。	藤井浩美
2	同上	同上	演習	同上	同上
3	同上	同上	講義	同上	同上
4	同上	同上	演習	同上	同上
5	教育の役割	保健医療専門職に至るまでの系統的教育の役割を学び討議で定着する。	講義	同上	佐竹真次
6	同上	同上	演習	同上	同上
7	同上	同上	講義	同上	同上
8	同上	同上	演習	同上	同上
9	青年心理と教育心理	青年と教育心理を理解し教育に反映できる。	講義	同上	同上
10	同上	同上	演習	同上	同上
11	同上	同上	講義	同上	同上
12	同上	同上	演習	同上	同上
13	教育方法と教育評価	各種方法を理解し、定着させる。	講義	同上	同上
14	同上	同上	演習	同上	同上
15	同上	同上	講義	同上	同上

16	同上	同上	演習	同上	同上
17	科目と授業設計	カリキュラム構成やシラバス作成ができる。	講義	複数の大学のカリキュラムやシラバスを比較検討する。	藤井浩美
18	同上	同上	演習	同上	同上
19	授業と成績評価	授業と成績評価の説明ができる。	講義	授業と成績評価に関する文献を抄読する。	同上
20	同上	同上	演習	同上	同上
21	保健医療専門職と社会保障制度	社会保障制度を教育側から説明できる。	講義	社会保障制度に関する文献を抄読する。	藤井浩美・スポット
22	同上	同上	演習	同上	同上
23	臨床実習のあり方	臨床実習教育を説明できる。	講義	臨床実習に関する各種文献を抄読する。	同上
24	同上	同上	演習	同上	同上
25	青年期の心理的特徴	日米比較をして説明できる。	講義	各種文献を抄読する。	同上
26	同上	同上	演習	同上	同上
27	教育研究法	日米を比較して説明できる。	講義	同上	同上
28	同上	同上	演習	同上	同上
29	管理と運営	保健医療専門職養成に必要な管理と運営に関する説明ができる。	講義	同上	同上
30	同上	同上	演習	同上	同上
日付					

教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書	
ディプロマ・ポリシーとの関連	博士後期1 / 博士後期2 / 博士後期3
実務経験のある教員	
実務経験をいかした教育内容	
教員の連絡先	藤井 浩美：研究室27 hfujii@yachts.ac.jp
備考	この特論は、「理学療法士に係る学校又は養成施設の指定基準第二条および第三条 法第十一条第一号の学校又は養成施設に係る令第九条第一項の主務省令で定める基準は、次のとおりとする。」にある「理学療法士（作業療法士）である専任教員は、～学校教育法に基づく大学院において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学院の課程を修了したものである場合は、この限りでない。」に該当する。